

子宮内フローラ検査とプロバイオティクスの治療介入

不妊治療を行う医療機関の医師に、実際の治療やサプリメントの活用などのお話を伺う医師インタビュー。
第2回目は、杉山産婦人科 新宿の石山先生に子宮内フローラとプロバイオティクスについて伺いました。



石山 俊輔 先生

杉山産婦人科 新宿 医師

日本産科婦人科学会専門医
日本生殖医学会生殖医療専門医

杉山産婦人科 新宿

<https://www.sugiyama.or.jp/shinjuku/>

東京都新宿区西新宿1-19-6 山手新宿ビル



10人以上の生殖医療専門医を含む20人以上の常勤医師が在籍し、不妊治療に精通したスタッフが高度生殖医療(体外受精)を専門的に行う。クリニックは新宿駅直結と好立地なうえ年中無休で診療時間も長く、仕事をしながら通院できる環境が整う。

杉山産婦人科の不妊治療実績

※難治性着床不全患者含む

年間採卵件数	約 5,000 件	40歳未満の臨床妊娠率	50.7 %
年間移植件数	約 4,000 件	40歳以上の臨床妊娠率	31.3 %

子宮内細菌叢検査(フローラ検査)とは？

これまでは子宮内は無菌状態と考えられていましたが、近年では子宮内にも多くの細菌が存在し、そのバランスが妊娠や出産にかかわることがわかってきました。

子宮内には善玉菌である乳酸菌や悪玉菌、日和見菌など多様な菌が存在しており、この子宮内に存在する細菌の集まりを子宮内フローラとよびます。(図1)

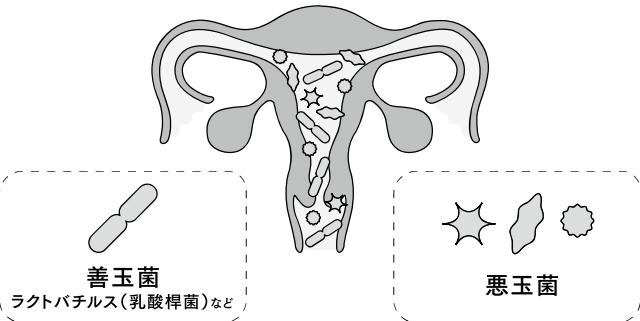


図1 腔内・子宮内フローラのイメージ

子宮内フローラ検査は子宮内の菌の種類と割合を調べる検査で、2022年6月から先進医療として認められています。

乳酸菌群の中でも代表的なラクトバチルス属が90%以上の群はそれ以下の群と比較して妊娠率が約2.1倍高く、生児獲得率が8.7倍高いとする報告(図2)が普及のきっかけとなり、現在では多くのクリニックで導入されている検査です。どんな細菌がいるかを検査し、原因を特定することで、不要な投薬を避け、患者さんへの負担を減らすこともできます。また、適正な環境であるかどうかを確認してから治療に向かうことで着床率や妊娠継続率の向上と、流産率の低下が期待されています。

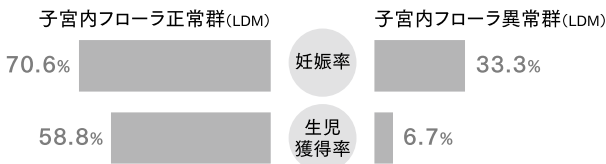


図2 女性器内フローラによる妊娠率、生児獲得率の比較

検査の対象になる方

当院では主に先進医療の一環として子宮内フローラ検査を採用しているため、その適応に準じています。

具体的には2回以上の胚移植にも関わらずうまくいかなかった症例、子宮鏡検査や経過から慢性子宮内膜炎を疑う症例です。

治療方法 ～抗菌薬とサプリメント～

当院では、子宮内フローラ検査を行い、慢性子宮内膜炎の原因菌があれば菌種に応じた抗菌薬を処方したのちに、乳酸菌サプリメント(プロバイオティクス)の経膣および経口投与、毎日ラクトフェリン600mgの内服を勧めています。乳酸菌にも種類があり、クリスパタスとガセリという菌株を含むプロバイオティクスで着床率が高いということが論文で報告されています。そのため、この2つが入っているサプリメントを選択しています。

当院における本治療による改善率 (n=29)

ラクトバチルス属が80%以上まで改善	約 75 %
ラクトバチルス属が90%以上まで改善	約 65 %

プロバイオティクスとラクトフェリンの併用をおすすめ

プロバイオティクスは有用な菌そのものを補充し、ラクトフェリンは有用な菌の増殖や活動を促進します。それぞれに妊娠へ好影響があったという報告があること、併用による有害性が現時点で指摘されていないことから、当院ではプロバイオティクスはラクトフェリンと原則併用するように患者さんに勧めています。ただし、金銭面の不安に関して相談があった場合はプロバイオティクスだけでも使用するようにお伝えしています。またラクトフェリンに関しては腸溶性のカプセルでの治療成績が報告されているので、300mgに減量してもよいので、量よりは腸溶性であることをしっかり謳っているメーカーのものを使用するように説明しています。

Q 子宮内フローラ検査や治療法などはどの医療機関で受けても同じなのでしょうか？

医療機関ごと、もっと言えば医師ごとに異なると考えた方がよいと思います。先進医療扱いということは、その検査や治療に関して最適な結論がでていないことを意味しています。それゆえにそれぞれの病院・医師ごとに勉強や工夫が求められるものです。当院でも最初の検査・治療方針は揃えていますが、治療がうまくいかない症例に関しては個々の症例ごとの対応が必要となっています。

私の場合、改善しない症例に関しては、指示通りに治療ができていないかをまず確認します。

例えば指示を守れていない場合、理由を何うと経済的理由や治療に納得して取り組めていないなど原因は多岐にわたることがわかります。指示通りに行っているのにうまくいかない方の場合には、患者さんの話を聞き、食生活の見直しや他の治療・検査の提案を行います。

前提として、子宮内環境が良い方が妊娠しやすいだけであって環境が悪いからといって妊娠例がないわけではないので、患者様の貴重な時間が失われないよう、検査結果にこだわりすぎず移植を勧めることもあります。

Q 検査費用が高いので、検査を受けずにプロバイオティクスのサプリメントを飲むことを検討しています。検査せずに使用することで生じるリスクがあれば教えてください。

まず検査費用に関しては自治体で助成金を出している可能性もありますのでまずは確認してみてください。

サプリメントは薬ではありません。継続すればそれなりにコストもかかりますし、不要な添加物が多く含まれている可能性があります。その一方で、有効に働く可能性ももちろんあります。使用前に医師にご相談いただければ、有効な可能性がありそうなサプリメントのご紹介もできますので、積極的に相談いただければと思います。

Q ドラッグストアで購入できるラクトフェリンや乳酸菌サプリも豊富にありますが、医療機関推奨でなければいけない理由がありますか？

サプリメントは、薬ではなくあくまで食品です。パッケージに表示されている有効成分が表示通りに入っていない実例の報告もありますし、添加物の問題もあります。ただし、患者さんはそうとは知らずに治療効果を期待して購入されるわけです。そうすると患者さんの貴重な時間・お金が無駄に失われる可能性があります。そのため医師としてはなるべく有効な報告があった製品、量や安全性に気を使った製品を探して推奨しています。医師が推奨するサプリを使った方が無難といえると思います。

Q 抗菌薬とプロバイオティクスは同時に内服したほうがよいのでしょうか？推奨使用期間はありますか？

抗菌薬は副作用もありますので慎重な使用が求められます。医師の指示通りに使用してください。

サプリメントの推奨使用期間は残念ながら不明です。1か月ほどで改善する方が多い一方、数か月後に再検したら十分に改善していた例もあり、患者さん毎に異なるのではないかと思います。

Q 妊娠後もプロバイオティクスのサプリメントを飲んで問題ないのでしょうか？

問題ありません。後期流産や早産の予防のために腔内環境を整えていくことは大切です。妊娠中も継続することが望ましいという報告もありますので、継続した方が良いかもしれません。

石山先生よりメッセージ

.....

患者さんの多くはセルフイメージが傷ついた状態で来院されていると感じています。なかなか妊娠に至らない場合、将来への不安・金銭面への不安・医療機関への不信任など負の感情を抱くことは自然なことと考えています。

そのことを抱え込まず、ダイレクトに医療者側に伝えていただき、一緒に最善の方法を探していければ理想の治療に近づくとと思います。

私自身も日々勉強していく中で治療方針が変わることがありますし、うまく患者さんに寄り添えていないように感じて反省することも多々あります。

医師や病院が合わなければ変えてもいいと思いますし、万が一、望んだ結果にならなかったとしても十分に納得して挑戦したことは無駄にならないと考えています。その結果として、よりよい人生になるお手伝いをさせていただければ幸いです。



インタビューを終えて...

患者様と向き合い、納得して治療を進めてもらいたいという先生の想いをお話の端々に感じたインタビューでした。検査結果が良くないと先に進めないと思ってしまいがちですが、必ずしもそうではないこと、正しい情報を得て、納得感をもって治療に取り組むことが大事だと改めて感じました。